

6-6

従来型特養における重度化とマンパワー不足をのりきる

レクリエーション活動が与える効果

レクリエーション

グループ・個別ケア

社会福祉法人 豊生会 特別養護老人ホーム 福楽園

福祉レクリエーションワーカー 小峰 文子

東京都あきる野市網代 326-1

TEL：042-596-4112

FAX：042-596-4176

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

特別養護老人ホーム福楽園はあきる野市に平成 11 年 4 月に開設しました。特養 120 床（2 フロアー、平均介護度 4.15）・短期入所 5 床・デイサービス 60 名を行っています。緑の多い静かな場所で、比較的市内に近く施設から一望できる景観の良い場所にあります。

〈取り組んだ課題〉

利用者 60 名のフロアーにおいて職員、パートを含め 1 日平均勤務者 10 名のうち、業務分担するとフロアー待機ケアワーカーは 2～3 名となり、離臥床、水分補給、コール対応、排泄介助に追われる。

そのような状況の中で、離床されてはいるが、居眠りをしたり、座っていたりするだけの利用者の表情は暗く活気がない。また立ち上がりや徘徊による転倒等事故が起きるといふ状況改善と活性化を目的とし、専任レクリエーション担当を配置し、毎日のレクリエーション活動を開始した。

〈具体的な取り組み〉

○小グループレクリエーション活動

- ・音楽活動を取り入れ、歌いながらの手足の運動を行い、回想法を取り入れ利用者個々の発語を促す。
- ・ゲームを企画し、競争や助け合いの中で仲間意識を作り、利用者の喜びにつなげる。また、瞬発的な動きからリハビリの効果を作る。
- ・作業活動を取り入れ、各自出来る作業に参加する事で全員で作る達成感を味わってもらう。
- ・読み書きや計算問題を行うことで意欲向上や集中力を維持する。
- ・園芸活動やドライブ等の外気浴を行い、季節感や外的刺激を体感してもらう。

○利用者の個別レクリエーション活動

- ・個々人の充実感や満足感を提供出来るよう、希望に沿ったレクリエーションの活動を行う。

〈活動の成果と評価〉

○小グループレクリエーションでは

- ・利用者の表情が明るくなり、フロアーに活気が見られる。
- ・笑顔が増え、会話が弾み、対人トラブルも減少。
- ・立ち上がりによる転倒事故の減少。
- ・生活にメリハリができ、夜間良眠に繋がった。
- ・手薄になりがちなフロアーの見守りが強化できた。
- ・レクリエーション参加により精神的安定が図れた。
- ・異食、徘徊、放尿等問題行動の軽減。

○個別レクリエーションでは

- ・余暇歴や仕事歴から再び生きがいにつながるものを提供できた。
- ・趣味・特技で楽しみを持続できるようになった。
- ・新たな活動の中から興味を持ち取り組むようになった。

○レクリエーションを通しての楽しみが、知らず知らずのうちに多くの利用者のストレス解消となり、仲間と一緒に活動する喜びや生きがいを与えてくれます又マンパワー不足で二の次になっていた目的のある離床、強いでは活性化に繋がりました。

〈今後の課題〉

○利用者個人に対しての生きがいとなるレクリエーションの提供。余暇時間の充実、生活の質の向上をさらに考える。

○自分自身が福祉レクリエーションワーカーとして、今以上の豊富な知識と高度な技術を身につける。